

一 高校生の介護知識の向上に向けて一

仁田窪琉雅 宇都宮悠太 沖本拓弥
島原大地 井上瑠南 斧聖羅
指導者：宇都宮 正多

課題設定の背景

少子高齢化に伴い、介護の重要性が社会的に高まっていることに対して、介護職に従事する人数は年々減少しているという現状がある。そこで、軽度の介護を必要とする高齢者は、家族で介護できるような社会づくりが必要であることから、高校生が介護知識を向上させ、明るい未来を実践するために課題を設定した。

研究方法

- ・インターネットから情報収集
- ・介護施設に訪問し、質疑応答
- ・アンケートを実施して、高校生の介護知識調査



介護施設への訪問

サービス付き高齢者向け住宅「ラポール恵美須」を訪問し、介護士の方にお話を伺った。介護について、仕事内容や精神的介護ケアなどの話を聞くことができた。

特に印象に残ったのは、高校生でも介護士の資格を取ることができるということだ。介護士の方は、若者に介護への関心を持ってほしいと語っていた。若い世代が介護への関心を高めることで、早くから将来を考え、介護の人材不足解消などにもつながるのではないかと感じた。今後の研究で自分たちにできることを考えたい。

仮説

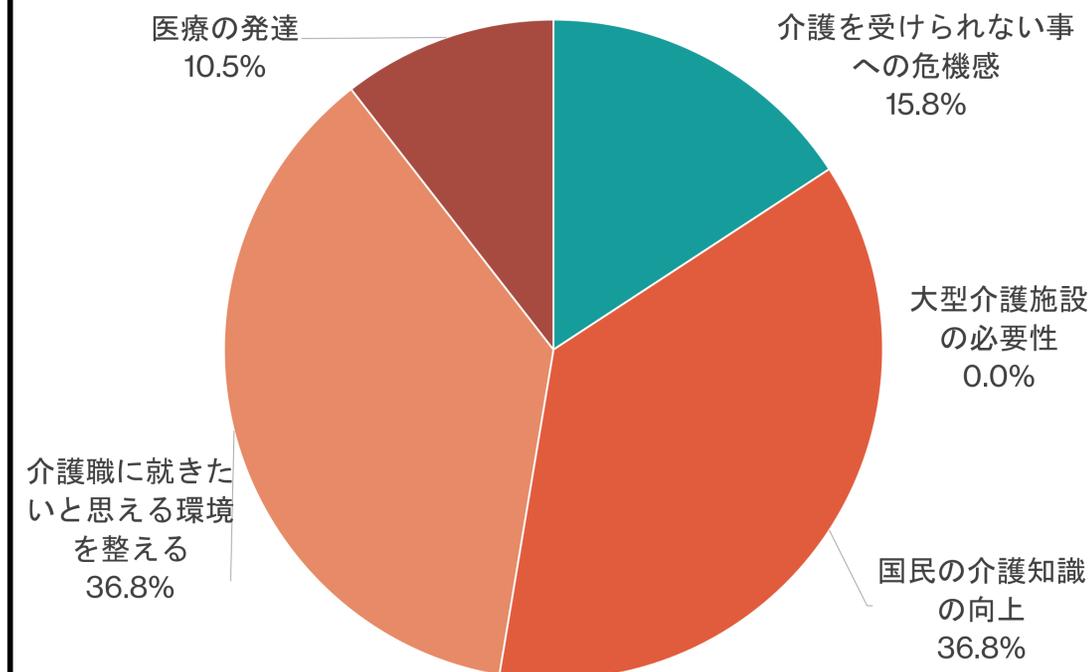
高校生の介護知識を向上させることで、「在宅介護」における家庭内での役割分担を明確化でき、家族の介護に対する協力意識を高め、要介護者が安心して生活できる環境が整うのではないかと考える。

今後の課題

- ・現在の介護施設の現状や介護士の待遇などについて詳しく調べる。
- ・介護士として資格を取得するためのプロセスや仕事の魅力についてまとめ、広く周知する。
- ・在宅介護をするための最低限の知識や方法をまとめ、パンフレットを作成する。

アンケート調査結果

・介護職の大幅な人材不足が懸念される中、あなたが感じることはなんですか？



・アンケートの結果からも専門職以外の介護知識向上や労働環境整備の重要性がうかがえる。将来を担う私たちが、もっと介護への関心を持ち、知識を付けるとともにその知識を広げる活動をしていかなければならない。